

《担当者名》鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義は、DP3に基づくりハビリテーション専門職として必要な知識の修得を目指す。具体的には、作業療法の歴史的発展を踏まえて、時代・社会背景の変化に呼応した医療・保健・福祉・教育・職業領域等のなかで、作業療法や作業療法士の役割について学ぶ。

【学修目標】

一般目標

対象者個人を尊重し、心身両面から「人がその人らしく作業ができるように援助する」作業療法や作業療法士の役割を理解するために、定義、歴史、求められる知識・技術・態度、対象疾患や対象者、関連される法律や制度などを学び、これらの要点について理解を深める。

行動目標

1. 作業療法の定義や歴史的な変遷の概略について説明ができる。
2. 専門職として作業療法士が関わる守備範囲について説明ができる。
3. 専門職として作業療法士が求められる知識・技術・態度について説明ができる。
4. 対象者が「その人らしく作業ができる」意義について、討論を通して共有できる。
5. 日本や世界の作業療法士教育体系、専門職能組織、そして専門職活動について説明ができる。
6. 作業療法と保健・医療・福祉の関係について、法律や制度の観点から説明ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	・ガイダンス ・作業療法を学ぶにあたって	1. 講義の概要、学習目標および内容を確認する。 2. 作業療法の定義について学ぶ。	鎌田樹寛
2	作業療法を学ぶにあたって	作業療法の歴史的変遷 ・作業療法の大まかな歴史について学ぶ。 トピック：「作業療法の哲学（Adolf Meyer）」を紹介し、レポート課題とする。	鎌田樹寛
3	作業療法を学ぶにあたって	作業療法の守備範囲について学ぶ。 ・発達作業療法 ・身体機能（含む高次脳機能）作業療法	鎌田樹寛
4	作業療法を学ぶにあたって	作業療法の守備範囲について学ぶ。 ・精神科作業療法 ・老年期作業療法	鎌田樹寛
5	作業療法を学ぶにあたって	作業療法の守備範囲について学ぶ。 ・終末期（ターミナル・ケア） ・地域作業療法	鎌田樹寛
6	作業療法士として求められる知識・技術・態度	作業療法を学ぶ学生が修得されるべき5領域から領域1～3の概要を学ぶ。 領域1：人-作業-環境との関係 領域2：治療的、専門的關係性 領域3：作業療法の過程	鎌田樹寛
7	中間のまとめ	第1～6回講義の内容について確認する。	鎌田樹寛
8	作業療法士の実践活動	専門職として、作業療法士が「地域生活支援」の作業療法に関して、特に疾患・障害を持ちながらも“その人らしく作業ができるようにする”対象者への「対応や理解の観点」について、映像を通して学ぶ。 トピック映像の紹介： 「車いす適合～人生を変える魔法の車いす～」	鎌田樹寛
9	作業療法士の実践活動	上記講義の内容について、グループ・ワーク討論を通して具体的な内容の理解を深める。	鎌田樹寛
10	作業療法士の実践活動	専門職として、作業療法士が「地域生活支援」の作業	鎌田樹寛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		療法に関して、特に疾患・障害を持ちながらも“その人らしく作業ができるようにする”対象者への「対応や理解の観点」について、映像を通して学ぶ。 トピック映像の紹介：「リハビリが人生を面白くする」	
11	作業療法士の実践活動	上記講義の内容について、グループ・ワーク討論を通して具体的な内容の理解を深める。	鎌田樹寛
12	作業療法士の実践活動	討論された内容を、プレゼンテーションを通じて発表し、各グループ間の考えを共有する。	鎌田樹寛
13	作業療法士として求められる知識・技術・態度	作業療法を学ぶ学生が修得されるべき5領域から、領域4の概要を学ぶ。 領域4：専門的な推論と行動	鎌田樹寛
14	・作業療法士として求められる知識・技術・態度 ・作業療法士の教育や専門職能組織について	1. 作業療法を学ぶ学生が修得されるべき5領域から、領域5について、概要を学ぶ。 領域5：専門職としての実践の背景 2. 作業療法専門職の教育体系、専門職能組織や専門職活動について概要を学ぶ。	鎌田樹寛
15	・保健・医療・福祉に関する法律、制度について ・本講義のまとめ	1. 作業療法や作業療法士に関連する主要な法律や制度の概要について学ぶ。 2. 質疑応答を通して、本講義を振り返る。	鎌田樹寛

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート課題：20%（1課題を予定）

プレゼンテーション内容：30%

試験：50%（中間のまとめ・定期試験を併せて、総合的に判断する。）

【教科書】

能登 他 編 「作業療法概論（第4版）」 医学書院 2021年
適宜資料を配布する。

【参考書】

秋元波留夫・富岡詔子 編・著 「新 作業療法の源流」 三輪書店 1991年

鎌倉矩子 著 「作業療法の世界（第2版）」 三輪書店 2004年

藤原茂 著 「生活支援のためのリハビリ・プログラム」 青海社 2007年

必要があれば、講義で紹介する。

【備考】

・ 質疑応答や感想等のフィードバックは、manabaを積極的に用いること。

【学修の準備】

・ 予習では、各テーマについて教科書を読んでおくこと（80分）。

・ 復習では、配布された資料と教科書ノート等を整理し、統合すること（80分）。

・ 8-12回では、グループワークによる討論が予定されているので、積極的な参加を意識すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

作業療法士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験および教育機関で実務経験を活かし、作業療法の「概観」について、努めて具体的事例を通して教授すること。また、必要な単位では、学生同士が参加できるアクティブ・ラーニングを用いて、学修の深まりを促す。